　　答辞

桜の蕾も膨らみ始め、柔らかな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。

　本日は私たち卒業生のために、このような盛大な式典を挙げて頂きましたこと、卒業生一同心から感謝申し上げます。

　四年前の春、新しく始まる大学生活に向けて、大きな期待と不安を胸に、本学に入学したことを今でも覚えています。私たちはこの四年間で、入学の時には想像できなかった程多くのことを経験しました。決して、嬉しいことや楽しいことばかりではありませんでしたが、仲間や家族、先生方などたくさんの方に支えて頂いたお陰で、大学での四年間は私たちにとって、何にも変えられない、かけがえのない時間となりました。

入学して一年が経とうとしていた二月。新しい大学生活にも慣れ、ここからどんなことが待っているのだろうと胸を高鳴らせていた頃、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なことに制限がかかりました。その猛威はこの三年、収まることを知らず、私たちから多くのことを奪っていきました。負けてはならないと、試行錯誤をし努力し続けても、その努力すらも発揮する場所が無くなる。そんな日々が続いた時は、どうして今なのかと、深く考える日もありました。しかし、私たちはこの経験を経て多くのことを学びました。当たり前ということは何一つないこと、何気ない日常に感謝すること。辛いことや悲しいことも多くありましたが、『止まない雨はない』と信じて、仲間と頑張り続け、喜びと幸せを感じられた四年間となりました。

本学は文武両道であり、日々の生活の中で、様々なことを学ぶことが出来ます。充実したカリキュラムを通して、知識だけでなく人としての本質なるものを学びました。高校では触れなかった競技や科目など、苦手なことでもクラスの仲間と支え合い、助け合いながら最後まで諦めずに取り組み、全員で乗り切ることが出来ました。

また、今年度は、三年ぶりに対面で藤園祭を開催することが出来ました。テーマは『Re:start〜再出発〜』。先の見えない不安を越えて、新たな光が差し込み始めている今、再び全員で前を向いて進んで行きたい。という願いと共に、学友会役員を中心に力を合わせて準備を進めました。対面での開催が三年ぶりということもあり、慣れないことばかりで不安も多くありましたが、多くの方々に支えて頂いたお陰で、無事思い出深い藤園祭を作り上げることが出来ました。

　クラブ活動においては、各クラブが、それぞれの目標に向かい、一丸となって取り組むことが出来ました。楽しい時、嬉しい時、悔しい時、辛い時、どんな時でも、そばにいてくれた仲間との思い出は私の人生の大きな財産となりました。一人では成し遂げられないことでも、多くの力が集まることで乗り越えられる。ここにいる仲間が何度も教えてくれました。クラブ活動を行うにあたり、最後まで熱心にご指導頂きました先生方、いつも陰で支えてくれた保護者の皆様、そして、多くの困難を共に乗り越え、喜びを分かち合った仲間に本当に感謝しています。

　今日、私たちは東京女子体育大学を卒業し、それぞれの道へ歩き始めます。その先は、きっと上手くいくことばかりではありません。理不尽なことや努力が報われないこともあると思います。そのような壁にぶつかった時、この大学生活で学んだことを十分に活かし、時には人に頼り、その問題の解決に向けて努力し続けることを約束いたします。

　最後になりましたが、本日までご指導頂きました学長先生をはじめ諸先生方、また多方面より私たちを支えて下さりました職員の皆様、ともに学生生活を過ごした友人たち、そしていつも一番の理解者である家族に、心より感謝申し上げます。東京女子体育大学の益々のご発展を祈念し、答辞の言葉とさせて頂きます。

令和五年　三月二十日

東京女子体育大学　体育学部　体育学科

卒業生代表　奥村　優奈

東京女子体育大学

学長　金子　一秀　先生